

ステムリム (コード 4599)

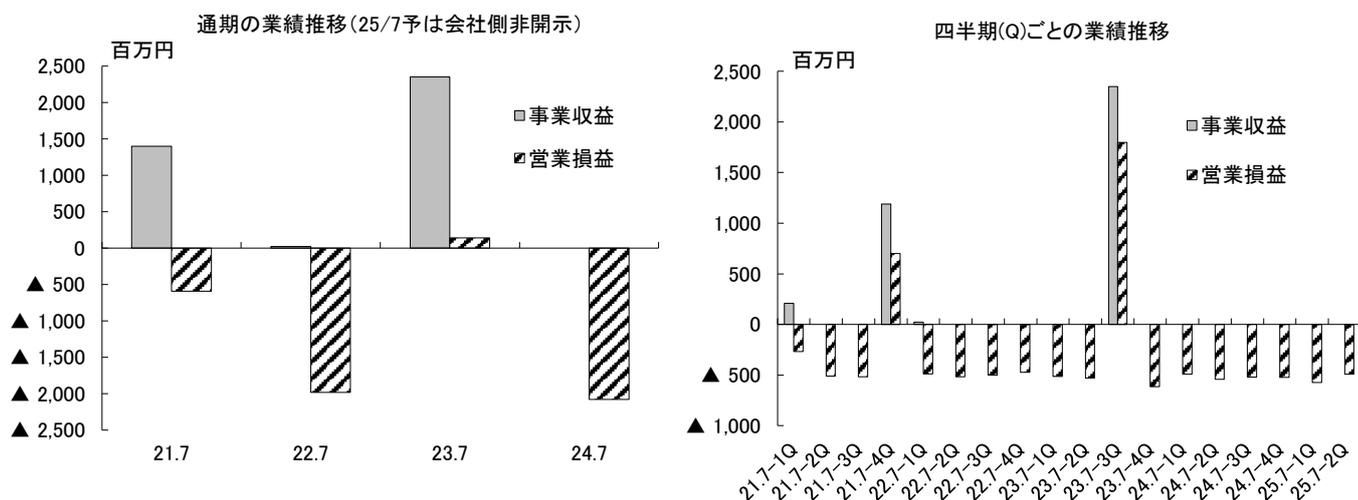
◆各決算期の中間期業績推移(非連結)

決算期	事業収益	営業損益	1株純損益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.7	22	▲1,006	▲17.0	0.0	▲545	▲0	92	9,719
23.7	—	▲1,042	▲17.0	0.0	▲569	—	99	8,410
24.7	—	▲1,033	▲16.5	0.0	▲1,094	▲2	62	9,183
25.7	—	▲1,066	▲17.0	0.0	▲746	▲43	41	7,662

◆通期業績推移(非連結) (25.7 予は会社側非開示につき表記しない)

決算期	事業収益	営業損益	1株純損益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
21.7	1,400	▲593	▲10.0	0.0	▲519	▲92	109	10,172
22.7	22	▲1,980	▲32.9	0.0	▲1,404	▲0	112	8,880
23.7	2,350	142	2.8	0.0	1,135	▲0	202	10,217
24.7	—	▲2,076	▲33.0	0.0	▲1,881	▲4	78	8,410

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



**25年7月期中間期の業績概況**…25年7月期の中間期(24年8月～25年1月)は、研究進捗にかかるマイルストーン収入や契約一時金などの事業収益は無く、研究開発費や販管費といった事業費用のみの計上となり、各損益とも赤字となった。

当中間期の業績は、事業収益無し(前年同期無し)、営業損失10億6,600万円(同10億3,300万円の損失)、経常損失10億6,500万円(同10億3,300万円の損失)、中間純損失10億4,800万円(同10億500万円の損失)となった。当中間期の研究開発費は7億3,900万円(前年同期比1.0%増)、販管費は3億2,600万円(同8.3%増)で、全体の事業費用は10億6,600万円(同3.2%増)だった。

当期における再生誘導医薬開発品レダセムチドについての進捗としては、表皮水疱症を対象とした臨床試験において、追加第Ⅱ相試験を実施中。急性期脳梗塞についてはグローバル第Ⅱ相b試験を実施中。虚血性心筋症については医師主導の第Ⅱ相試験bを実施中。変形性膝関節症、慢性肝疾患については医師主導の第Ⅱ相試験を完了、となっている。また、レダセムチドに続く第二世代の再生誘導医薬「TRIM3」「TRIM4」(ともに全身投与型新規ペプチド)については、非臨床開発及びライセンスアウトに向けた事業開発活動が引き続き進捗。そのほか、表皮水疱症の根治治療を目的とする幹細胞遺伝子治療「SR-GT1」については、AMED(国立研究開発法人日

本医療研究開発機構)からの補助金(支出経費の3分の2)対象として治験を準備中で、会社側では、3年間合計で最大1億7,900万円の助成金を受領する可能性がある、としている。

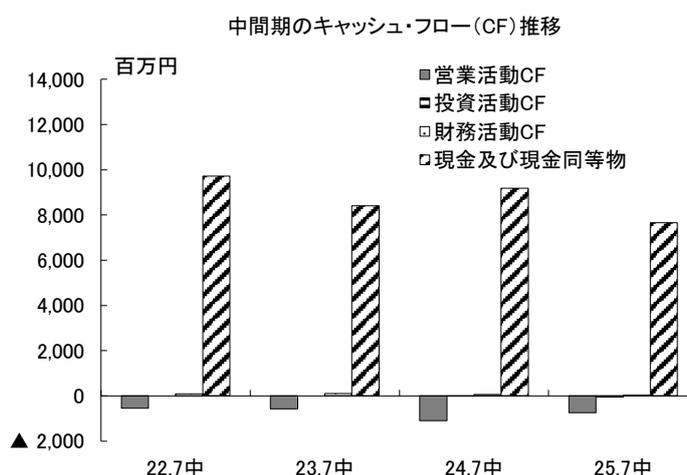
当期末現在の貸借対照表について、資産においては、流動資産が81億4,700万円(24年7月期末比8.2%減)に減少。このうち、事業費用の計上や設備投資などに伴い、現金及び預金が76億6,200万円(同8.9%減)となった。固定資産については、設備投資などにより、2億2,200万円(同9.9%増)に増加した。負債・純資産においては、未払法人税等の増加などによって流動負債が9,300万円(同38.8%増)に、固定負債が1億1,800万円(同横ばい)となったほか、中間純損失の計上などにより、純資産は81億5,700万円(同8.3%減)に減少した。

キャッシュ・フロー(以下、CF)の状況については、当期末現在の現金及び現金同等物の残高は76億6,200万円(前年同期末比16.6%

減)となった。営業活動によるCFでは、税引前当期純損失10億4,600万円(前年同期は10億300万円の損失)、株式報酬費用2億3,100万円(前年同期比3.1%増)、前払費用の増加額1億円(同11.1%増)、未収消費税等の減少額1億3,100万円(前年同期は増加額9,800万円)などにより、営業活動に伴う支出は7億4,600万円(前年同期比31.8%減)に減った。投資活動によるCFでは、有形固定資産の取得による支出4,300万円(前年同期は無し)などにより、投資活

動に伴う支出は4,300万円(前年同期は200万円)に増えた。財務活動によるCFでは、株式の発行による収入4,100万円(前年同期比34.9%減)により、財務活動に伴う収入は4,100万円(同33.9%減)に減った。

**25年7月期の業績見通し**…25年7月期の通期業績について、会社側では「当社における現在の事業収益は開発進捗に伴うマイルストーン収入がその大半を占めており、これらの収入は提携先の開発戦略及び開発スケジュールに大きく依存している。当社がマイルストーン収入の受領時期を予想することは困難であり、事業年度ごとの事業収益額に大きな変動が生じる可能性がある」とし、現時点では合理的な業績予想の算定が困難であることから、予想値を公表していない。会社側では、レダセムチドについて、引き続き適応拡大に向けた研究開発が進捗することを見込んでおり、レダセムチドに続く再生誘導医薬開発候補品についても臨床試験及びライセンスアウトにむけた交渉が引き続き進捗することを見込んでいる。今期にかかる現金収支について、収入面では、新規提携に伴う一時金や、導出済みのパイプラインについて既存の提携先からのマイルストーン収入などが発生する可能性がある、と。支出面では、研究開発で12億円~16億円、一般管理費で2億3,000万円~3億1,000万円の、合計14億3,000万円~19億1,000万円を見込むほか、現時点で2028年までの安定的な研究開発活動のための十分な資金を確保、としている。



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。